



平成30年2月20日（火） 岐阜県発表資料			
担当課	担当係	担当者	電話番号
里川振興課 (水産振興室)	水産係	後藤 功一	内線 2912 直通 058-272-8293 FAX 058-278-2695

岐阜県魚苗センター施設拡充工事の完了

近年、冷水病^{*1}の発生などにより、本県河川漁業の最重要魚種であるアユの漁獲量が減少していることから、その漁獲量を回復させるため、県魚苗センターにおいて、冷水病菌を持たない放流用種苗（稚アユ）の生産能力を増強する施設の整備を進めてきました。

同センターでの施設拡充工事の完了に伴い、下記のとおり完成式を行います。

記

1 完成式の概要

- (1) 開催日時 平成30年3月23日（金） 午前10時30分～11時30分 ※雨天決行
- (2) 会場 拡充施設敷地内（美濃市生櫛1486-5）（裏面参照）
※（一財）岐阜県魚苗センター美濃事業所の南側に増設した施設の敷地内
- (3) 出席者 県関係（知事、岐阜県議会議長、岐阜県議会農林委員長、内水面漁場管理委員）、
（予定）（一財）岐阜県魚苗センター代表理事、漁業関係者（岐阜県漁業協同組合連合会、各漁業協同組合）、地元関係者、施工業者 ほか 約100名

2 県魚苗センター整備事業の概要

(1) 事業の内容等

①「美濃事業所」の整備について

放流用アユ種苗の生産量を60トンから72トンへ増やすため、卵からふ化したアユを育てる施設（種苗生産施設）を、事業所の南側に隣接する県有地に増設。

増設敷地面積：3,313㎡ 延床面積：1,847㎡

棟名	構造	延床面積	設備等 ^{*2}
飼育棟	鉄骨1階建	1,658.24㎡	飼育水槽（12面）、出荷水槽（2面）
機械棟	鉄骨1階建	118.80㎡	
飼料庫	鉄骨1階建	69.96㎡	
計		1,847.00㎡	

<参考> 美濃事業所（美濃市生櫛1486-4）の現況>

敷地面積：9,235㎡（延床面積：5,227㎡／13棟）、飼育池数：43面

②「関事業所」の整備について

採卵用親魚^{しんぎょ}※を安定的に確保するため、河川遡上稚アユを親魚へ養成するための専用施設（親魚養成施設：2万尾／年）を、事業所敷地内に新たに設置。

※これまで、採卵用親魚は河川で捕獲しており、河川遡上稚アユから親魚へ養成する事業は今回新たに着手するもの。

延床面積： 923㎡

棟名	構造	延床面積	設備等 ^{*2}
親魚養成棟	鉄骨1階建	874.78㎡	飼育水槽（8面）、選別水槽（2面）
機械棟	鉄骨2階建	48.60㎡	
計		923.38㎡	

<参考> 関事業所（関市戸田竹島74）の現況>

敷地面積：11,805㎡（延床面積：6,185㎡／5棟）、飼育池数：45面

（2）総事業費（見込み）

約12億5千万円

（3）整備工程

平成27年度	実施設計	
平成28年度	土木工事	（平成28年7月～平成29年7月）
	建築工事	（平成28年9月～平成30年1月）
平成29年度	機械・電気設備工事	（平成29年7月～平成30年2月）
	外構工事等	（平成29年7月～平成30年3月）
平成30年度	新施設稼働	

*1 アユの冷水病

冷水病菌 (*Flavobacterium psychrophilum*) によって起こる細菌病で、致死性の感染症。

5月～7月に発生しやすく、症状としては吻部の出血、欠損、体表にえぐれたような穴ができる場合がある。アユにおいて大量死が起きることが多く、全国的な問題となっている。

*2 設備等の説明

飼育水槽・・・卵からふ化したアユ等を飼育する水槽。

選別水槽・・・アユの雌雄等の選別を行う水槽。

出荷水槽・・・出荷するアユ種苗を入れる水槽。

【参考：完成式 会場位置図】

